

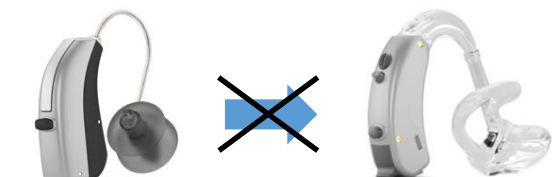
COMPASS GPSスタンドアロンを用いた 同一器種間の調整データの移行

同一器種間かつ同じ音響構成であれば、COMPASS GPSスタンドアロンデータベースに保存してある調整データを移行することができます。例えば、試聴器でフィッティングした調整データを新規購入品の同一器種に移行する際に便利です。センソグラム、FBテストやIG、プログラムなどが移行されます。

音響構成が変更できるモデルの場合は、データ移行前に、移行元となる補聴器と同じ音響構成に合わせてからデータ移行を行ってください。

調整データが移行できない例

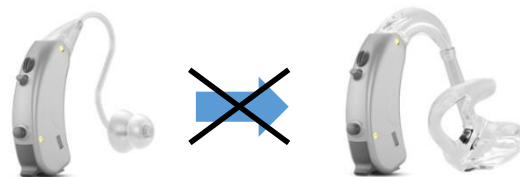
・移行元と移行先の補聴器のモデルが異なる場合



移行元：D4-FS

移行先：D3-9

・移行元と移行先の補聴器の音響構成が異なる場合



移行元：細いチューブ

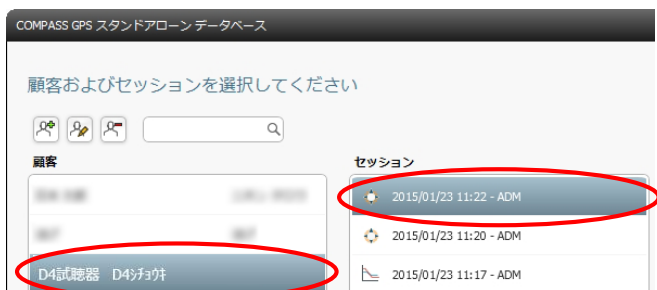
移行先：標準フック

移行されない内容

- ・補聴器のシリアルナンバー
- ・サウンドダイアリーの記録データ
- ・スマートスピークの男声/女声、言語の設定

データベース使用の場合の調整データ移行手順

- ① COMPASS GPSを起動し、データ移行をするお客様を選択、移行したいセッションを開きます。



- ② データ移行をしたい補聴器に電源を入れ、USB LinkやnEARcomの通信範囲内に置き、「接続」ボタンをクリックします。



- ③ 下記画面が表示されるので、「COMPASSデータ」をクリックします。



- ④ 音響構成画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- ⑤ 微調整を行う場合は「ファインチューニング」へ、すぐお渡しになる場合は、画面右上の「セッションの終了」をクリックし、データを保存しCOMPASS GPSを終了します。

※両耳の場合も同様の手順でデータコピーが可能です。また、両耳の調整データから、片耳のみのデータ移行も可能ですが、両耳協調・同期は解除されますのでご注意ください。

データベースを使用しない場合の調整データ移行手順

- ① データ移行元の補聴器をCOMPASS GPS画面中央の「**接続**」ボタンをクリックし、接続します。

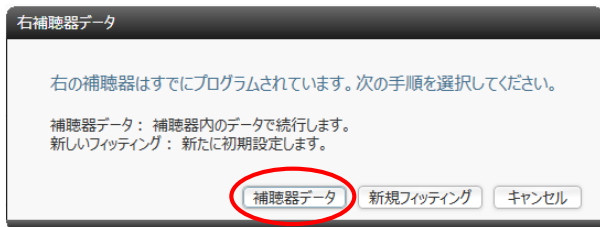


- ② 接続された補聴器の情報が表示されますので、指定側の左右を確認し、同じ側を選択、「**次へ**」ボタンをクリックします。

※ これは、元データを呼び出す作業です。



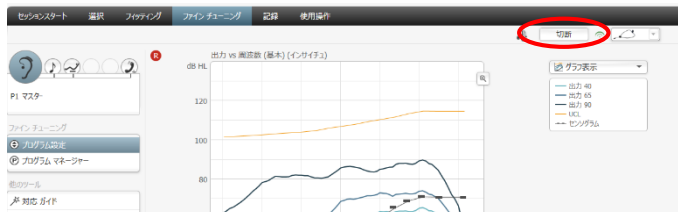
- ③ 以下のメッセージが表示されましたら、「**補聴器データ**」をクリックしてください。



- ④ 音響構成画面が表示されますので、「**OK**」ボタンをクリックします。



- ⑤ 「**ファインチューニング**」画面でフィッティングデータ確認後、画面上中央の「**切断**」ボタンをクリックし、補聴器を切断します。



※ 画面上中央のボタンは、補聴器を接続中は「**切断**」、補聴器を未接続中は「**接続**」と表示されます。

- ⑥ データ移行先の補聴器を準備します。画面上中央の「**接続**」ボタンをクリックし、データ移行先となる補聴器を接続します。

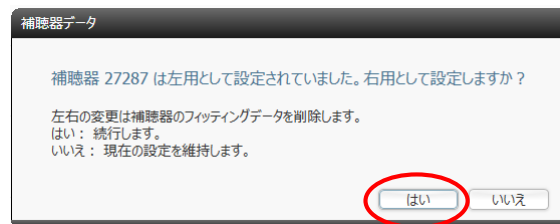


- ⑦ 接続された補聴器の情報が表示されますので、データ移行元の補聴器と同じ側（左右）を選択し、「**次へ**」をクリックします。

例) ②のデータ移行元の補聴器は右でしたので、ここでは右を選択します。



- ⑧ 以前調整したことのある補聴器の場合、以下のようなメッセージが表示されます。「**はい**」をクリックし、続行してください。



- ⑨ ⑧と同様に以前調整したことのある補聴器の場合、以下のメッセージが表示されますので、「**COMPASS データ**」をクリックしてください。



- ⑩ 再度確認のため⑦と同じ画面が表示されますが、「**次へ**」をクリックしてください。



※ 納品されたばかりの補聴器の場合、⑧～⑩のメッセージは表示されません。

この時点でデータの移行は完了です。念のため、フィッティングデータが正しく移行されているか、ご確認ください。